

R 世界史問題

注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は8ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はI・IIとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

 (3と解答する場合)

I. 次の文を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

ヨーロッパ諸国が重商主義政策の一環として世界各地へと広めた植民地支配と、この植民地支配を基盤にして進んだ産業革命とが、「近代世界システム」を生んだ。中心としてのヨーロッパ（後にはアメリカも）と他の周縁地域との間の支配・従属的な分業体制という形で、「世界の一体化」が進むことになった。

15世紀末、ポルトガルは国王（イ）の下に国土の統一を進め、アフリカまわりのインド航路を開拓して、香辛料の産地との直接的な取引や奴隷貿易などによって富を得た。スペインはアメリカ大陸の広大な地域やフィリピンへと進出し、まずはくあ制と呼ばれる土地・労働制度を通して先住民たちを鉱山や農園で酷使し、続いて西アフリカから移入した黒人奴隷たちも使役して莫大な富を蓄えた。いち早く海外進出を果たしたポルトガルとスペインは、1493年の教皇子午線、引き続き1494年のくい条約で両国の広大な勢力圏を東西に二分して定めた。

ポルトガルとスペインからは遅れたものの、17世紀にはオランダ、イギリス、フランスなどの海外進出も盛んになり、最初に「世界の一体化」の推進者になったのがオランダであった。オランダはバルト海貿易で富を蓄え、1602年に東インド会社を設立して（ロ）を拠点に東南アジア・東アジア貿易の実権を握ると共に、南アフリカのくう植民地やセイロン島のコロomboを拠点としてインド洋中継貿易も担った。1621年には西インド会社を設立し、北アメリカの東海岸にニューネーデルラント植民地を領有して、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ大陸・西インド諸島をつなぐ大西洋三角貿易の主要な担い手ともなった。このように世界をつないだオランダは「黄金の17世紀」と呼ばれる繁栄を享受した。

イギリスは1652年から1674年の間に¹⁾3度にわたってオランダと戦い、オランダの海上覇権に打撃を与えた。オランダからニューネーデルラントを奪い、18世紀前半までには北アメリカ東海岸にイギリスの13植民地が南北に並ぶ形となった。18世紀後半、ヨーロッパでの（ハ）と併行して行われたくえ戦争で勝利したイギリスは、フランスからは（ニ）を首府として植民が進められてきたカナダなどのヌーベルフランスを、スペインからはフロリダをそれぞれ獲得して、北アメリカ支配の基礎を固めた。同時にインドでは（ホ）でフランスとベンガル太守の連合軍に勝利してインド支配を本格化し、その後、マレー半島やビルマにも進出した。

このようにイギリスが世界貿易の覇権を握っていく18世紀は、産業革命が進んだ時代であった。イギリスでは第2次²⁾囲い込み（エンクロージャー）によって賃金労働者が生まれたことなどに加えて、植民地支配によって工業製品の市場と原材料の供給地とが広大に

確保されたことが産業革命の大きな原動力となった。

このイギリスのロンドンで、1851年、第1回目の万国博覧会が開催された。万博は世界が中心地域と周縁地域とで成り立っていることを物語る巨大な展示装置という性格を持っていた。次の表は、20世紀初頭までに開催された主な万博の開催年・開催都市などを示したものである。

表 主な万国博覧会 (20世紀初頭まで)

1851年	ロンドン	正式名称「万国工業製品博覧会」
1855年	パリ	正式名称「万国農業・工業・芸術製品博覧会」
1862年	ロンドン	日本の文久遣欧使節団が開会式に参加
1867年	パリ	江戸幕府・薩摩藩・佐賀藩が出展
1873年	ウィーン	明治政府が出展
1876年	フィラデルフィア	アメリカ独立100年記念
1878年	パリ	プロイセン・フランス戦争復興記念
1889年	パリ	フランス革命100年記念、エッフェル塔建造
1893年	シカゴ	コロンブスのアメリカ「発見」400年記念
1900年	パリ	第2回オリンピック併催
1904年	セントルイス	第3回オリンピック併催

第1回ロンドン万博では鉄とガラスを材料に巨大な温室のような展示館が建造され、その西半分がイギリスの展示、東半分が³⁾34の参加国の展示に当てられて、延べ600万人もの入場者が集まった。もっとも注目を集めたのは遠心ポンプ、輪転機、刈取機など、時代の先端をゆく産業機械の展示で、これら産業機械は世界の中心地域で進んだ産業革命の成果であった。

しかし、当時、ヨーロッパの人々の好奇心は産業革命の成果ばかりではなく、世界の周縁部とそこに住む人々の生活や文化へも向いていた。1855年のパリ万博でフランスはアルジェリア、イギリスは東インドやオーストラリア、ニュージーランド、オランダはジャワ島からの出品物を展示した。1889年のパリ万博でフランスはアルジェリアとチュニジアに加えて、アンコール=ワットの形をしたカンボジアのパピリオンを作るなどフランス領インドシナ連邦の展示にも力を入れた。さらには会場内に植民地人集落を設け、フランスは自らの植民地の中から、西アフリカに位置し古くはゴレ島が奴隷貿易の拠点であった

(ヘ) や、南太平洋に位置しニッケル鉱山の開発がなされたニューカレドニアなどの先住民たちを連れてきて実際に住ませ、その生活振りを見せて来場客たちの好奇心に応えた。この「未開人」たちの展示は、1893年のシカゴ万博、1904年のセントルイス万博では人類学・民族学の研究にも携わるスミソニアン協会⁵⁾の協力を得てさらに大規模なものへと拡大⁶⁾し、万博の目玉の1つともなった。

19世紀の後半、「世界の一体化」が完成していく中で、人々は広く世界や世界の人々を見渡す視線を身につけ始めており、このことは世界観光旅行時代の始まりへとつながっていた。フランスの小説家ジュール＝ヴェルヌがイギリス人資産家の世界冒険旅行を描いた作品『八十日間世界一周』⁷⁾を発表したのは1872年である。

A. 文中の空所(イ)～(ヘ)それぞれにあてはまる適切な語句を、次の a～d から1つずつ選び、その記号をマークせよ。

- (イ) a. エンリケ b. カブラル c. ジョアン2世 d. フェルナンド5世
(ロ) a. シンガポール b. バタヴィア c. マカオ d. マニラ
(ハ) a. アン女王戦争 b. オーストリア継承戦争
 c. 七年戦争 d. スペイン継承戦争
(ニ) a. オタワ b. ケベック c. トロント d. モントリオール
(ホ) a. シク戦争 b. プラッシーの戦い
 c. マイソール戦争 d. マラーター戦争
(ヘ) a. カメルーン b. セネガル c. ナイジェリア d. リベリア

B. 文中の空所(あ)～(え)それぞれにあてはまる適切な語句をしるせ。

C. 文中の下線部1)～7)それぞれに対応する次の問1～7に答えよ。

1. オランダでは経済活動の発展と共に、市民が台頭した。レンブラントがアムステルダム¹⁾の市民自警団からの注文を受けて1642年に描いた集団肖像画は何と呼ばれるか、その名をしるせ。
2. 第2次囲い込み(エンクロージャー)²⁾は、何を目的とし、どのようなことが行われたのか、2行でしるせ。
3. この展示館は何と呼ばれたか、その名をしるせ。

4. これほど多くの人びとが万博を訪れた背景には、積立金制度による万博見学の奨励、万博案内誌の発行、宿代を節約するための夜行列車の手配などを通してロンドン万博への団体旅行を組織化した旅行業者の存在があった。この旅行業者は誰か、その名をしるせ。
5. シカゴ万博およびセントルイス万博では、その会場で第2回および第3回のオリンピックが併催された。1894年に国際オリンピック委員会を組織して、1896年に近代オリンピックを始めたフランスの教育者は誰か、その名をしるせ。
6. ブラジルのアマゾン地域への調査旅行を『悲しき熱帯』としてまとめ、構造主義的分析を通して先住民への偏見を乗り越えようとする思想を発展させた人類学者は誰か、その名をしるせ。
7. この作品の主人公が行った世界旅行とほぼ同じ経路を、岩倉使節団（1871～73年）が辿っている。このような世界旅行が可能となった背景には、共に1869年に起こった①海上交通上と②陸上交通上の大きな出来事が関わっていた。これら2つの出来事をそれぞれしるせ。

Ⅱ. 次の文を読み、下記の設問 A・B に答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしろせ。

中国の王朝制について、中国の思想において重要な天の観念からみてみよう。

天が人や国家を作り、天命を受けた天子が王位に就くという考え方は、周代に生まれた。殷から周への王朝交替も、この考え方に基づき（イ）革命と言われる。周代の天は殷代の鬼神信仰の要素は残すものの、為政者の徳によって禍福をもたらすと考えられた。そのため、周王は占いをういて天命を知る必要はなく、王朝を維持して王の徳を天に認められることが重要だった。紀元前 8 世紀、西北の異民族である（ロ）¹⁾に都を攻略された周が東遷する。以降、秦による統一までの約 550 年を春秋・戦国時代と呼ぶ。春秋時代の有力諸侯は周王の権威のもと、尊王攘夷をスローガンに諸侯の同盟を図ったが、やがて各々が王と名乗って争うようになった。戦国時代に入ると、諸王は世襲よりも個人の実力による人材登用を進め、富国強兵に努めた。²⁾

このように社会が大きく変動する中、思想学派が続々誕生し、多様な中国思想の源流となった。そして天の観念も変化する。春秋末期、孔子は周の政治を理想としたが、鬼神を排し、天については語らず、天命は人間の能力の限界を超えた運命的な理法とした。（ハ）は鬼神の存在を認め、天を絶対者とし、天の意志は自他の別なく愛する人類愛の実現であるとした。孔子を祖とする儒家は、仁と徳による統治を評価し、性善説にたつ孟子や、性悪説にたち、君主が定めた礼による教化が必要とした（ニ）³⁾によって継承された。（ニ）は、人の善悪に対して天が禍福をもたらすという考えを否定し、人は天、地と肩を並べる第三の存在であるとして、その独自性・能動性を主張した。

中国を初めて統一した秦は、法家の思想に基づいて支配体制を確立した。君主を絶対的な存在とした法家は、（ホ）⁴⁾の法治主義を韓非が大成したものである。（ホ）は秦王の（ヘ）に仕え、富国強兵・君主専制策である変法を実施した。秦の思想・言論統制で不振になった儒教（儒家の教え）は、漢代になると（ト）⁵⁾が天人相関説を唱え、世界のあらゆる変化や存在は天が下す現象だが、天子の人格がそれを招き寄せるとした。この説は周代の天の観念も復活させたが、（ニ）の考えを継承し、天子の権力を強化している。中央集権化を進める武帝は、（ト）の建言により儒教の重要な經典である五経の教授・普及を任務とする五経博士を設置し、儒教は正統教学化（国教化）した。

後漢後期には社会が混乱して儒教は低調になった。一方、呪術を用いて不老長生を求める神仙思想が広まって教団組織をもつようになり、道教の前身を形成した。魏晋南北朝期には、インドから伝来した仏教が広まった。その後、儒・仏・道の三教は対立しながら自己強化のために融和し始める。漢以降、低調だった儒教は中唐になって復興が始まり、宋⁸⁾

代になると儒教の新しい学派が多数生まれ、論争の中で天の観念が変化した。天は意志をもたない自然的なもので、天と人を貫く法則は理のみであるという新しい観念は発展して朱子学を生み、明代には陽明学が生まれた。

⁹⁾ 明末にはイエズス会などの宣教師が中国で布教し、ヨーロッパの天文学や科学技術に関心の高かった支配階級に受け入れられた。しかし中国の王朝は、漢代以降、天の至高性に基づく皇帝支配を正当化し、儀礼面では儒家の思想に基づく国家祭祀の体系をもつという基本形を共有していた。そのため清代には、ローマ教皇がキリスト教の信者に儀礼参加を禁じたのを機に、キリスト教の布教は禁止された。天の観念に支えられた中国の王朝制度が瓦解するのは1911年10月に始まる辛亥革命であり、新たな思想に基づく中央集権的国家である中華人民共和国が建国されるまで38年間を要した。

¹¹⁾

A. 文中の空所(イ)～(ト)にそれぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の下線部1)～11)にそれぞれ対応する次の問1～11に答えよ。

1. 周の支配階級の基盤となった宗族はどのようなものか、2行でしるせ。
2. 戦国時代は、春秋時代の強国であった晋の分裂から始まるとされる。この分裂によって生まれた国ではないものを、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 韓 b. 魏 c. 宋 d. 趙
3. 次のi・iiそれぞれの思想学派に属する思想家を、次のa～dから1つずつ選び、その記号をマークせよ。
i. 概念と実物の関係を明らかにしようとし、論理学を発展させた
ii. 身分の別によらない万人による農耕、物の価格の均一化を説いた
a. 許行 b. 公孫竜 c. 呉子 d. 鄒衍
4. 秦が実施した地方統治制度の説明として正しいものを、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 委任された土地の支配管理権の世襲を認めた
b. 中央から派遣された官僚が、中央の法に従って統治した
c. 土地の支配管理権を、世襲で保持する地域と、中央から派遣された官僚が担う地域とに分けた
d. 土地を恩給として貸し与え、貢納や軍役を課した

